

生糸検査所時代から KIITOへ

今から約90年前、生糸検査所としての役割を担っていたデザイン・クリエイティブセンター神戸。建物の中には、当時使われていた検査機器の数々、検査所職員たちとともに過ごしていた家具が今も残っています。まずは、生糸検査所時代を写したアルバム写真とともに、当時をよく知る方の話を聞きました。



1970年代、生糸検査所で 職員として働いていた宮垣貴美代さんの話

家具の印象はあまりなくて、私が入った頃にはほぼ飾りみみたいになっていたと思います。部長室の家具などは使っておられたでしょうけど。それよりも生糸検査所のことで思い出すのは、初めて入所したときの匂いの記憶。蚕はいなかったけど、生糸からキリギリスみたいな匂いがしていて、玄関から入った瞬間、うわっ...と思ったのをよく覚えています。KIITOになった今でも、当時のままだなと思うのはカフェの空間。カフェに入ると、あ、水分検査室だ、なつかしいなあと思ってしまいます。それにしても、劣化が進んでいたあの歴代の家具をきれいに直されましたね。大事に使ってください。



神戸ぐらしはじめました。

12人目
中通寛記さん
(野菜基地建築家)
美咲さん
(料理研究家)
神戸歴:10カ月(取材時点)



まっすぐと、正直な生き方万歳!
東京で予約の取れないオーガニックレストラン「南青山野菜基地」を経営していた中通寛記さ

神戸への移住、最近増えているそうです。神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。

んは横浜、長野と拠点を作りながら、2020年の4月に神戸へとリターンを果たしました。コロナを機にレストランの閉店を決意し、今は実家のある妙法寺で料理研究家の奥さんと生活しながら、幼少期に住んでいた塩屋の町で新たな事業を展開中。誰でも簡単にセルフビルドできる新たな建築工法の家を広め、「秘密基地」を手づくりする人を増やしたいと考えているそう。そんな寛記さんもDIYがマイブーム。実家を改装したり、野菜を育てて調理し、生ゴミをコンポストで土に還して生活に小さな循環を作っています。こ

れまでの経験を生かしてジャンル横断的に活動を行う寛記さんですが、これからは「何もしないことをする時間を神戸でどんどん増やしていきたい」という言葉が印象に残りました。



イラスト:建築家美菜 (MITO,タカ)

近藤のぞみさんの 神戸めし

バインミー-シンチャオの「ミチャバインミー」



新開地エリアにここ数年増えているというベトナム料理のお店。近藤さんは「すれ違う人から異国の言葉が聞こえてくると、神戸は多文化なんだなあと感じる」と話します。仕事にはお弁当を持参することが多いけれどこの店はなんとなく気になっていて、一緒に仕事をする相手におすすめることもあるのだとか。実はまだ食べたことがなかったという一番スタンダードなバインミーを、テラス席で頬張っていました。

バインミー-シンチャオ 神戸店【新開地】
兵庫県神戸市兵庫区新開地4丁目3-1

12.近藤のぞみさん
(神戸アートビレッジセンター)
「Marching KOBE」企画でKIITOとも連携する神戸アートビレッジセンター(KAVC)のスタッフ。



5問でわかる 世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何? 世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第19回は、日本の五大家具産地の一つとして家具デザインが世界的にも高い評価を受ける旭川から。

Q1「ここぞデザイン都市!」というスポット / Q2旭川を舞台にした作品のオスメ / Q3最近、一番驚いたこと / Q4ハマっていること / Q5デザインをひと言でいえば

Vol.19 日本・旭川 | Asahikawa

- 旭川の玄関口、JR旭川駅。自然豊かな街にふさわしく、内装には北海道産の木材がふんだんに使われています。駅構内にはたくさんの旭川家具が配置されて、木のぬくもりを感じる最上級のラウンジに。さらに駅の南側に一歩踏み出すと、川が流れる緑豊かな公園「北彩都ガーデン」が広がっています。
- 旭川生まれの三浦綾子の小説「氷点」。映画化もされた「氷点」は、人が生まれながらに背負っている罪について登場人物を通して問う作品。舞台である国有林の外国樹種見本林には、三浦綾子記念文学館が建

てられています。また、旭川で最も古い喫茶店や旭川六条教会など実在の場所も作中に登場しています。

- デザインは、いい世の中や未来を創る力があると分かったこと。
- 旭川の大自然を感じ、遊ぶこと。
- 大切な人のことを想って、素敵なプレゼントを考えるようなもの。

🗨️ 答えてくれた人

一宮 章郎さん
経済産業省から旭川市役所に出向中。旭川市のユネスコ創造都市ネットワークの加盟認定を受け、「デザイン都市あさひかわ」のプロジェクトを推進中。「デザイン」を切り口とした旭川の未来創りを考えながら、アウトドア・アクティビティに励んでいます。



今号のデザイナー | 藤原幸司(4S DESIGN) 神戸・塩屋にある、旧グッゲンハイム邸のシェアオフィスを拠点に活動するグラフィックデザイナー。 <https://4s-design.net>

KIITO NEWSLETTER VOL.032

2021年3月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)が年4回発行する情報誌です。センターのコンセプトである+クリエイティブな活動を発信していきます。

発行:デザイン・クリエイティブセンター神戸
編集:竹内厚[Re:S]
デザイン:藤原幸司(4S DESIGN)
写真:坂下丈太郎

KIITO:

ACCESS
阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より
フラワーロードを南へ徒歩20分
国道2号線を超えた神戸税関東向かい
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

CONTACT
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4
TEL: 078-325-2235
E-mail: info@kiito.jp
開館時間: 9:00-21:00
休館日: 月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3
<https://kiito.jp/>



90年前のモノ語り

生糸検査所時代からKIITOへ

【連載企画】神戸ぐらしはじめました。/○○さんの神戸めし:近藤のぞみさん/世界のデザイン都市ガイド[旭川]

What's on

KIITOへのアクセスが便利に!

2021年4月より、三宮とウォーターフロントエリアを結ぶ連節バス「Port Loop」の運行が開始されます。神戸の沿岸地域の回遊性がさらにアップ! KIITOへも足をお運びいただきやすくなります。「PORT BLUE (ポート・ブルー)」をデザインコンセプトにした、みなとまち神戸を感じられる車両にも注目です。



詳細なバス停位置や運行ダイヤは、神戸市または神姫バスWebサイトをご確認ください。

News

ゲーム感覚で! 楽しみながら防災を学ぶ

KIITOが協力した、台湾デザイン研究院が進める防災デザインプロジェクトの成果展が台湾で開催中。台湾クリエイターによるカードゲームなどの防災教育ツールや非常時持ち出し袋はどれもカラフルかつスタイリッシュで、実際に使ってみたくなるものばかり。会場は5つのゲームステージに見立てられ、クリアすることで防災知識が自然に身につくよう設計されています。



消消防災 BLOCK DISASTER

2021年3月11日(木)~7月25日(日)
会場:台湾設計館 03
主催:經濟部工業局
協力:デザイン・クリエイティブセンター神戸、NPO法人プラス・アーツ

Report

コロナ禍での文化施設のこれからを考える

神戸市内においてアートやデザインを扱う施設として活動する4館のスタッフが、〈変わったこと、変わらなかったこと〉をテーマに各館の2020年催事を振り返るオンライントークイベントを開催。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の運営やイベント形態までもが大きく変化した1年でしたが、催事に関わる人々の想いの強さは変わらず、リアルとオンラインそれぞれの良さを取り入れて今後の運営につなげていきたいと締めくくられました。

KAVC×C.A.P.×KIITO×F美クロストーク
「Marching KOBE ナビ」
~2020年総ざらい!変わったこと、
変わらないことの話~

2021年2月11日(木・祝)
主催:神戸アートビレッジセンター(KAVC)、
C.A.P.(芸術と計画会議)、
デザイン・クリエイティブセンター神戸、
神戸ファッション美術館



私は、所長室で衝立として使われていました。正面と後ろの両方に植物装飾の壁紙が貼られていて、中央には丸い装飾が。目玉タイプの壁付けパネルとおそろいの丸装飾です。組み立て時に位置を示すため付けたと思われる印はアルファベットで書かれていて、当時の職人さんも海外の影響を受けていたのかなあと想像します。

もともと壁付けされていた私、帽子をかけるためのフックやステッキを立てるスペースがあるのが特徴です。シンプルなつくりですが、傘やステッキ立てとなるバーには装飾が施されてちょっとおしゃれ。鏡は釘でしっかり打ち付けられていたのですが、慎重に取り外したところ、裏面のクッション材として昭和初期の新聞紙が。鏡をきれいに掃除した後、新しい用紙に替えてビスで留め直していただきました。

もともとは私の下に置く、弟がいました。自分によく似て高級感のある端正な顔立ちだったと思いますよ。年齢を重ねて勝手に口が開いてしまうことが多くなっていましたが、蝶番部のズレやゆがみを調整していただきました。扉の取っ手が鋳物製ですてきなので、ぜひ見てもらいたいです。

私は書庫で使われていたと記憶しています。使いやすさよりもおしゃれな見た目に気を配っていたので、厚みのあるチーク材を削り出したアーチ型の屋根、鏡の前の飾り棚などちょっとゼータクなつくり。真鍮製の蝶番でつけられた観音開きの扉には鍵もついています。なお、お察しのとおり、ものすごく重たいです。

まろやかな鏡と、ステッキ立てに施された装飾のおかげで「なんだか優雅だね」なんて言われたりします。厚みのある鏡は手作業でこのかたちに切られているんですよ。ステッキ立て正面の植物装飾は、木をくり抜いて正面から貼り直すというこだわりの技。6ヶ所あるフックにしても、引っ掛けるところとベース部が別々の部品になっています。

目玉のように左右につけられた丸い装飾が特徴です。同じ丸装飾がついた壁紙パネルとはセットでつくられたのかな。兄弟みたいなものです。鏡の下の棚板はずいぶん汚れていたんで、取り外して着色し直し、ワックスまでかけていただきました。

実は上には別の家具兄弟が乗っていたのですが、引き出しの縁や取っ手部分をおしゃれにしっかり作ってもらったので、よく一人っ子に間違われます。見た目はチーク材なんですけど、実は、上部は合板、内部は針葉樹というちゃっかり合理的なつくりです。

私は、生糸が汚れていないかどうかを肉眼で検査する「肉眼検査室」で使われていました。天板に付いている小さなスイッチは電気のスイッチで、これを切り替えてほかの検査員への合図にしていたんですよ。全身ぐらぐらだったので、一度全部解体して直してもらいました。補強のために打たれたクギは全部引き抜いて、ぎこちなく動かしくかった引き出しも箱の歪みを削って調整済み。見えない部分ですが、天板の裏にはおしゃぶり型のくさびが使われています。

私の天板には、よく見るとどなたかの手の跡がうっすらと残っていました。塗装されていない木の場合、長い年月を経て、使っていた頃の手の脂が表面に浮かび上がってくるのだとか。たしか女性の方だったかと思うのですが…。あの頃がなつかしいですね。



家具修理を担当した山極博史さんのコメント

検査所という場での使用を前提につくられたと思われませんが、きっちりつくる時は力を入れ、抜くところは合理的に抜くというメリハリのつけかたが深く感じました。また、同じ家具でもしっかりホゾ組みしている部分と釘で簡単に接合している部分が混在しているのが印象的でした。施された装飾などのデザインには当時の神戸や日本の洋家具の原点を感じます。これからも使用されることは大変貴重なことだと思います。

山極博史さんと、神戸家具の研究を行っている佐野浩三さん(神戸芸術工科大学 芸術工学部教授)によるトークイベントを今年開催予定。詳細はKIITOウェブサイトでお知らせいたします。

90年前のモノ語り

KIITOでは生糸検査所時代の家具の修理を行い、利活用しています。昨年10月から今年の1月にかけて、家具デザイナーの山極博史さん、杉島郁子さん(うたたね)が家具10点の修理とメンテナンスを行ったことをきっかけに、検査所で使われていた頃の面影が見えてきました。ここでは、そんな家具たちの声に耳を澄ませてみましょう。